

目的 服装史の変遷には、內衣の外衣化という現象がある。本研究は、ゆかたの色・柄の多様化に伴い、従来のゆかた着用に対する考え方に変化がみられることに着目した。ゆかたの着用場面について、20歳前後の女性がどのようにとらえているのかを、調査し明らかにする。合わせて、ゆかたの着用状況の歴史的变化を考察することによりゆかたが現代ではどのように位置付けられているのかを考察する。

方法 ゆかたがどのような経緯を経て現在に至っているのかを文献等により調査した。又現況を、若い女性向けの雑誌などから、ゆかたについての記事を取り上げ、内容を検討した。女子大生・女子短大生約1200名を対象に、ゆかたに対しての興味とゆかたを着用しようとする場面についてアンケートを用いて調査を行った。

結果 雑誌等では、ここ数年ゆかたに関する記事が多く取り上げられており、明らかに「ゆかたブーム」であるといえる。それらの情報を元にして、女子大生・短大生のゆかたの着用場面に関する考え方は、決められていると考えられる。その結果ゆかたを、日本的な行事に着用するという考え方は根強い。しかし、ゆかたを着用しての行動範囲は現在広くなっており、ゆかたは、ホームウエアの立場からタウンウエア（外出着）へと変化しているのである。